# あゆみ通信

VOL. 159
あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会推進員連絡協議会)
会　長　細川　克彦
広　報　本持　喜康

## 第2組聞法会発進

　コロナ感染拡大により、ほぼ空白の第2組聞法会でしたが、満を持して、感染対策を徹底しながらスタートしました。

2022年4月28日(木）午後2時から、天王寺区の宗恩寺(池田英二郎住職）を会場に、組内の住職や寺族、門徒や推進員30名が参加して開催されました。

墨林浩組長（光照寺)の開会あいさつの後、池田住職による調声でお勤めをしました。引き続き、講師・大橋恵真先生(18組遠慶寺）の法話をいただきました。

　先生は、組の推進員養成講座に帯同されて本山を訪れ、同朋会館の壁面に伝道掲示された「**『私は正しい』。争いの根はここにある**」と言う言葉に深く魅かれ、座談会でのやりとりの様子や、親鸞聖人の「**われもひとも、よしあしということをのみもうしあえり**」(「歎異抄」後序）や「唯信鈔文意」等の言葉をひかれながら、丁寧にお話いただき、久しぶりにしっかりと聞法させていただきました。（大橋先生の法話聞書きは、別項）

## 聞法会開催について

　第2組では、真宗の宗の①お念仏をする②仏法を聴聞する③物忌みをしないの一つである聞法を、活動の大きな柱に取り組んでまいりました。

　しかし、残念ながら3年前のコロナ感染拡大により、大事な仏事の一つである仏法聴聞が「不要不急」による自粛で余儀なくされて来ました。

　今年は、諸般の事情に配慮しながら、感染対策を徹底し、ソーシャルディスタンスと、換気や、検温と消毒に心がけ、参加にはマスクを着用して、実施してまいりたいと考えております。

　もちろん、体調不安の方にはくれぐれもご無理のないようにと願っております。以上、ご理解いただき、ご参加くださるようにお願いいたします。

### 6月聞法会

日時　6月18日(土）午後2時
会場　法山寺(阿倍野区天王寺町）
講師　宮部　渡先生
　　（15組　西稱寺）
参加費　500円

## あゆみの会・朋友会合同研修会

　コロナ感染拡大により、2年間空白であった、第2組青年僧組織の朋友会との合同研修会を開催します。

　次代の第2組寺院の担い手であるお寺の皆さんと、お手次の寺院や第2組の興隆に向けて、また、現状とこれからを共に語り合う集いです。
朋友会をはじめ、会員の皆さんのご参加を期待しています。

　なお、体調に不安のあります方は、くれぐれも無理をされないようにお願いします。

日時　6月21日(火）13：30
会場　即應寺(阿倍野区阪南町）
内容　法話と座談
講師　神保　朝成先生
　　（浪速区恵美須西）

## 親鸞のことば

### これが善、これが悪だと言い切れるのか

**善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり。（「歎異抄」）**

　借金の返済を強いられて、生活のために盗みをする。先の見えない介護生活に疲れ、子が親を手にかける。どちらも現在の社会では許されないことですが、心情として理解できないわけではありません。

　人間の社会では安全のためにルールを作り、善悪を区別しなければいけません。それが人間の限界です。だから、こうしたことも悪とするしかないのです。しかし、阿弥陀さまはそうではありません。さとりの智慧の眼で人の行いをご覧になり、誰にでも救いの手を差し伸べてくださるのです。（名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」より）

## PEACE＆LOVE

　今回のロシアのウクライナ侵攻という戦争を目の当たりにして、一人の仏弟子を思い出した。

　高校の恩師の縁で、アレン・ネルソンと短いが熱い絆をいただいた。

　それは、即應寺の藤井善隆住職(当時）の骨折りで、難波別院で2007年2月19日に大阪教区職員研修会(公開講座）にアレン・ネルソンさんと通訳の恩師を招き、満堂の講演となって結実した。

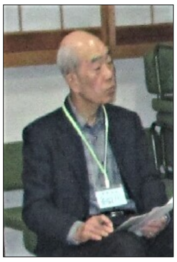
　彼は1947年、ニューヨークはブルックリンに生まれ、貧困を逃れるために高校を中退して海兵隊に。沖縄で駐留し、ベトナム戦争に従軍。戦いの中でベトナム人も同じ人間であることに気付き除隊。しかし帰国後PTSDを発症し、18年近く苦しむ。医師の助けで立ち直る。自らが犯した罪を懺悔し、沖縄での少女暴行事件を機に、日本を訪問。以来、平和と非暴力の使徒として13年、全国で1000回以上の講演をしたが、2009年、米軍がベトナムで撒いた枯葉剤が原因とされる多発性骨髄腫で逝去。兼ねてより親交のあった真宗大谷派の佐野明弘師（石川県光闡坊住持）の寺で、仏弟子釈阿蓮として眠る。兵伐無用。（本）

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏―人として生まれた意味をたずねていこう―」

# 「私は正しい」争いの根はここにある

## 第2組聞法会報告
## 大橋先生の法話聞書

**細川克彦（佛足寺）**



大橋先生は、初めに本山の同朋会館の講堂の壁に貼られていた法語、「『私は正しい』。争いの根はここにある」を見て、ドキリとしたと言われ、この言葉についてレジュメを配ってくださいました。法語には解説文も添えられていて、さらに先生の感想文も書いておられ、自分のことを言われているようだと。

解説を紹介します。

「この言葉は、お寺の掲示板に記されていた言葉です。自分のことを言われているように感じ、ドキリとしました。「私は正しい」と主張するとき、それは「あなたは間違っている」と言っていることになってしまいます。そんなつもりはなく、私の意見を解ってほしいとのだと思いながら、相手を否定してしまう時があります。

社会を生きていく上で、事実の確認をする、記憶の確認をする、ルールの確認をするなど、正しいことと間違っていることはおそらくあるのでしょう。

でも、大切なのは、目の前の人との関係です。どちらが正しい、どちらが間違ってと言う関係は、争いを招き、傷つけ合う結果になってしまいます。

人は間違えます。間違ってばかりです。そのことを目の前の人から教えられます。「正しい」と主張し合うような関係より、間違っていたことを教えられ、お互いを認め合える関係を結びたいものです。

第二組聞
不得外現
賢善精進相
内懐虚仮

感想文では「確かに日常生活をしていく上で「正しいこと」と「間違っていること」はあるように思います。ですから、相手の人と「正しい」、いや「間違っている」と議論することは大切なことなのでしょう。しかし、その議論が、相手の人を批判し否定し、時には断罪し、屈服させるためになっていることが、私自身よくあるように思います。どこまで行っても「私は正し」くて相手は間違っている」。それを相手に認めさせたい私がいるのです。（後略）

第二組聞法会
歎異
破邪顕
の精神

しかし、私たちはよく間違いをし、あとで気が付くことがよくある。「善し悪し」をこえて、本当にお互いを認め合える関係を結びたいと願います」と書かれています。

そのことを親鸞聖人のお言葉で確かめるため、先生は「歎異抄」後序（「聖典」640P-641P）より、**「まことに如来の御恩ということばを沙汰なくして、我も人も善し悪しということをのみ申しあえり**（後略）」を引用されました。

先生は正しいとか間違っているとか、善いとか悪いとかの背後には、自分にとって都合がいいか悪いかの分別心が隠れているのではないか。これはどうしようもない自我と言うものの構造である。そのような私たちの営みは**「そらごと・たわごと・真実（まこと）あることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」**と。念仏は、「私が間違っておりました」と、阿弥陀さまに頭が下がった心であると。

また、「自力のこころをすつ」と言うのは、自分を立てていく心、俺がと言う心、私はダメだと言う心を捨てることである。しかし私たちには捨てても捨てても起こってくる。けれども、一度捨てたことがあったら、思いだし、いただき直すことができる。そうして、人生の完成に向けて一日一日歩んで行けると、丁寧に優しく話してくださいました。合掌。

## 教化委員会開催

5月18日（水）午後4時から光照寺（豊林住職）において第2組教化委員会が、組の住職、坊守および朋友会と門徒会及びあゆみの会から委員15名（含むZOOM参加）で開催され、以下の仏事について協議し、これについて6月21日開催の組会で正式に決定されます。

**①第38回同朋大会**

日程　2023年3月11日（土）
　　　午後1時30分～
会場　難波別院　同朋会館
内容　お勤めと記念法話
講師　釈　徹宗先生
　（相愛大学学長、浄土真宗本願寺派如来寺）
参加費　1000円（記念品有）

**②第2組報恩講**

日程　11月9日（水）午後2時
会場　即應寺
内容　お勤めと法話、同朋総会
講師　ご依頼中（詳細は後日）
参加費　500円
会場でのお斎飲食はありません。

**③慶讃法要団体参拝**

日程　2023年3月28日（火）
募集人員100名　詳細は別途。